

# 原 著

## 結核性頸腺炎ノ統計的觀察 特ニ其ノ血液所見ニ就テ

東京市立大塚病院外科(主任 高島博士)

醫學士 白 井 泰 藏

日大醫學士 平 野 壽

### 内容目次

#### 緒 言

#### 第一篇 一般的觀察

- 第一章 性及ビ年齢別ニヨル統計
- 第二章 腺腫ノ占位、數、移動性及ビ瘻孔ノ統計
- 第三章 咳嗽、喀痰、發熱及ビ結核性素因ノ有無
- 第四章 既往歴ニ於ケル結核性疾患
- 第五章 治療法
- 第六章 豫 後

#### 第七章 結 論

- 第二篇 レントゲン照射前及ビ照射經過中ニ於ケル結核性頸腺炎患者ノ血液像、赤血球沈降速度、血球數並ビニ、血色素
- 第一章 検査法
- 第二章 レントゲン照射前ノ所見
- 第三章 レントゲン照射經過中ニ於ケル所見
- 第四章 結 論

### 緒 言

東京市立大塚病院開院以來滿5ケ年間(自昭和4年7月1日至昭和9年6月30日)ニ本院外科外來ヲ訪レタル結核性頸部淋巴腺炎患者合計

432名ニ就キ、種々ノ統計的觀察ヲ試ミ、諸賢ノ參考ニ供セント欲ス。

### 第一篇 一般的觀察

#### 第一章 性及ビ年齢別ニヨル統計

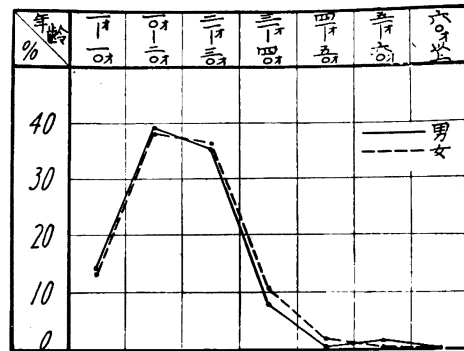
(1)性 男子188名、女子244名ニシテ、其ノ比率ハ43.5%對56.5%ナリ。即チ女子ノ罹患率ハ男子ヨリ大ナリ。  
(2)年齢 男女各々年齢別ニ區分セルニ第一表ノ如キ結果ヲ得タリ。之ヲ百分率トシ曲線ヲ以テ示セバ第二表ノ如シ。即チ全體トシテ11歳

—20歳ニ最モ多數ニシテ、21歳—30歳之ニ次ギ、1歳—10歳及ビ31歳—40歳ニ稍々多ク見ラル、モ41歳以上ノ高年者ニハ甚ダ少シ。次ニ男女別ニシテ見ルモ矢張り兩性孰レモ11歳—20歳最モ多ク、21歳—30歳之ニ次グ。

第一表

年齢	性別		合計
	男(%)	女(%)	
1歳—10歳	25(13.3)	32(13.1)	57
11歳—20歳	74(39.4)	93(38.1)	169
21歳—30歳	67(35.6)	89(36.5)	153
31歳—40歳	15( 8.0)	26(10.6)	42
41歳—50歳	1( 0.5)	5( 2.0)	6
51歳—60歳	3( 1.6)	2( 0.8)	5
61歳以上	0	0	0
合計	188	244	432

第二表



## 第二章 腺腫ノ占位、數、移動性及ビ、瘻孔ノ統計

(1) 結核性頸部淋巴腺炎ハ統計上兩側ヲ侵スコト最モ多ク、137名(36.56%)、右側ノミノモノ之ニ次ギ、127名(33.86%)、左側ハ111名(29.58%)、尙ホ同時ニ結核性腋窩淋巴腺炎ヲ合併セルモノハ19名(5%)アリ。

(2) 罹患淋巴腺ノ數ハ多數侵サレシモノ最モ多ク249名(64.5%)、只1個ノモノ之ニ次ギ84

名(21.7%)、2、3個ノモノ53名(13.8%)アリ。

(3) 移動性 罹患淋巴腺ノ移動性ヲ有スルモノ179名(48.5%)、移動性ヲ有セザルモノ169名(45.8%)、不明ノモノ21名(5.7%)ナリ。

(4) 瘻孔 既ニ穿孔シ瘻孔ヲ有シ膿ノ排出アルモノ48名(11.1%)アリ。

## 第三章 咳嗽、喀痰、發熱及ビ結核性素因ノ有無

(1) 咳嗽 咳嗽ヲ訴ヘシモノ66名(15.3%)アリ。尙ホ喀痰ヲ見ルモノ50名(11.0%)。

(2) 發熱 微熱ヲ訴ヘシモノ49名(11.3%)ア

リ。

(3) 結核性素因 家族歴ニ結核性素因ヲ認メ得ルモノ45名即チ、10%ニテ認メ得。

## 第四章 既往歴ニ於ケル結核性疾患

既往歴ニ於ケル結核性疾患ヲ表示スレバ第三表ノ如シ。即チ、126名、換言スレバ患者總數ノ29.2%ニ於テ既往ニ結核性疾患ヲ經過セルナリ。此ノ中最多數ヲ占ムルハ肋膜炎ニシテ、73名(57.9%)、次デ肺結核22名(17.4%)、腹膜炎18名(14.1%)ナリ。尙ホ骨結核、脊椎「カリエス」、關節結核、結核性副睪丸炎及ビ肺門淋巴腺腫脹等アルモ極メテ少數ナリ。尙ホ肋膜炎ハ患者總數ノ16.9%ニ於テ經過セラレタルモノニシテ、第四表ノ如ク、肋膜炎既往症ニ於ケル肺結核(田澤、小林)肋膜炎既往症ニ於ケル腎

第三表

病名	患者數(%)	總患者ニ對スル比(%)
肋膜炎	73(57.9)	16.9
肺結核	22(17.4)	5.1
腹膜炎	18(14.1)	4.4
骨結核	6( 4.6)	1.4
脊椎「カリエス」	3( 2.4)	0.7
關節結核	2( 1.6)	0.4
結核性副睪丸炎	1( 0.8)	0.2
肺門淋巴腺腫脹	1( 0.8)	0.2
計	126	29.2

第 四 表

報告者	田澤・小林 肺結核既往症ニ 於ケル肋膜炎	金子・杉崎 腎臟結核既往症 ニ於ケル肋膜炎	前田・島田 脊椎「カリエス」 既往症ニ於ケル 肋膜炎	白井・平野 頸部結核性淋巴 腺炎既往症ニ於 ケル肋膜炎
例數 %	880 例中 311 例 35.4%	137 例中 41 例 29.9%	602 例中 129 例 21.4%	432 例中 73 例 16.9%

臟結核(金子、杉崎)肋膜炎既往症ニ於ケル脊椎「カリエス」(前田、島田)ノ諸報告ニ比較スレバ

余等ノ肋膜炎既往症ニ於ケル結核性頸淋巴腺炎ハ稍々低率ナルハ注目ニ値ス。

第五章 治療法

結核性頸部淋巴腺炎ノ療法ニ就テハ未ダ膿瘍ヲ形成セザルモノニハ原則トシテレントゲン照射法ヲ行ヘリ。即チ第五表ニ示ス如ク、レントゲン照射療法ノミヲ行ヘルモノ201例(46.5%)アリ。又切開創又ハ破潰創ノ創傷療法ヲ行ヘル傍ラ、レ線照射ヲ行ヘルモノ、或ハソノ後療法トシテ、レ線照射ヲナセルモノ105例(24.3%)、既ニ膿瘍ヲ形成シ、切開排膿シ、爾來ソノ創傷療法ヲ行ヘルモノ74例(17.1%)、來院時既ニ瘻孔存シ、ソノ保存的療法ニ終始セルモノ29例(6.9%)ナリ。但シ腫脹セル腺ノ數少ク、且ツ移動性充分ナルモノハ時ニ手術的ニ之ヲ摘出セルガ其數10例(2.3%)アリ。尙ホレ線照射療法ノミヲ行ヘル場合患者其ノ期間ノ長キ爲メ、

第 五 表

治 療 法	例數(%)
レ線照射療法ヲナセルモノ	201(46.5%)
創傷療法ニレ線療法ヲ加ヘンモノ	105(24.3%)
切開排膿シ創傷療法ヲセルモノ	74(17.1%)
瘻孔アリテソノ治療ニ終止セルモノ	29(6.9%)
腺摘出術ヲ行ヘルモノ	10(2.3%)

中途ニシテ中止スルモノ數多クシテ4、5回以上連續照射セルモノハ49例(11.3%)ニ過ギズ。照射ノ方法ハ約5分間1紅斑量(H. E. D.)ヲ1回量トシ6日ノ間隔ヲ以テ、反覆照射スルナリ。

第六章 豫 後

結核性頸部淋巴腺炎ノ豫後ハ第六表ニ示セル如ク、全治セルモノ55例(12.7%)、著シク良好トナリタルモノ38例(8.8%)、良好トナリタルモノ63例(14.4%)、稍々良好トナリタルモノ14例(3.2%)、變化セザルモノ5例(1.1%)、惡化セルモノ3例(0.7%)ナリ。

第 七 表

レ線照射療法ノミニヨル豫後	例數(%)
全治セルモノ	ナシ
著シク良好トナリタルモノ	12(24.5%)
良好トナリタルモノ	23(46.7%)
稍々良好トナリタルモノ	4(8.2%)
變化セザルモノ	2(4.1%)
惡化セルモノ	ナシ
豫後不明ナルモノ	8(16.3%)
計	49

第 六 表

豫 後	例數(%)
全治セルモノ	55(12.7%)
著シク良好トナリタルモノ	38(8.8%)
良好トナリタルモノ	63(14.4%)
稍々良好ナルモノ	14(3.2%)
變化セザルモノ	5(1.1%)
惡化セルモノ	3(0.7%)

第 八 表

腺摘出術ノミニヨルトキノ豫後	例數(%)
全治セルモノ	8(80%)
不明ナルモノ	2(20%)
計	10

又レ線照射療法ノミヲ施行シタルモノ、中、數回以上連續照射セル49例ニ就キテ其ノ豫後ヲ見ルニ、第七表ニ示セル如ク、著シク良好トナリタルモノ12例(24.5%)、良好トナリタルモノ23例(46.7%)、稍々良好トナリタルモノ4例(8.2%)、變化セザルモノ2例(4.1%)、惡化セルモノナシ、豫後不明ノモノ8例(16.3%)ナリ。即チレ線照射療法ニテハ79.4%ニ於テ良好ナル結果ヲ得タリ。

尙、腺摘出術ノミヲ行ヘル例ニ就テハ、第八表

ニ示セル如ク、全治セルモノ8例(80.0%)、不明ナルモノ2例(20.0%)アリ。

以上ノ結果ヨリ綜合スルニ結核性頸部淋巴腺炎ノ豫後ハ從來信ゼラレタルガ如クハ不良ナラズ。

勿論一般結核症ト同様榮養ノ増進、生活ノ向上、新鮮ナル空氣、日光浴其ノ他ノ強壯療法或ハ合併症アラバ其ノ治療等ノ必要ナルハ論ヲマタズ。

## 第七章 結 論

(1)女子ノ罹患率ハ男子ヨリ高く、其ノ比ハ56.5%對43.5%ナリ。

(2)年齢ハ男女共ニ11歳—20歳最モ多ク、21歳—30歳之ニ次グ。高年者ニハ少ク、61歳以上ニハ之ヲ見ズ。

(3)罹患部ハ兩側ヲ侵スコト多ク、右側之ニ次グ。又腺腫ノ數ハ多數個侵サレシ場合最モ多シ。

(4)腺腫ノ移動性ヲ有セルモノ48.5%、有セザルモノ45.8%、瘻孔ヲ有セルモノ11%、咳嗽アルモノ15%、微熱アルモノ11%。

(5)家族歴ニ結核性素因ヲ有セルモノ10%。

(6)既往症ニ於ケル結核性疾患ハ29.2%ニ於テ認メラレ、就中肋膜炎最モ多シ。

(7)レ線照射療法ヲノミ行ヘルモノ46.5%、後療法又ハ合併療法トシテレ線照射ヲ應用セルモノ24.3%、通常ノ創傷療法ヲ行ヒシモノ24.0%、腺摘出術ヲ行ヘルモノ2.3%ナリ。

(8)全治セルモノ12.7%、良好トナリタルモノ26.4%、惡化セルモノ0.7%ナリ。尙ホ、レ線照射療法ニテハ其ノ79.4%ニ於テ良好ナル結果ヲ得タリ。

## 第二篇 レントゲン照射前及ビ經過中ニ於ケル、結核性頸腺炎患者ノ血液像、赤血球沈降速度、血球數竝ビニ血色素

赤血球沈降速度竝ニ血液像ガ、種々ナル疾患ノ診斷豫後、或ハ治療ノ指針トシテ重要ナル意義ヲ有スル事ハ明カニシテ、近來此ノ方面ノ研究特ニ甚ダ多シ。

余等ガ結核性頸淋巴腺炎ノ統計的觀察ヲナスニ當リ、特ニ此ノ方面ニ意ヲ注ギ、當院外來、結核性頸淋巴腺炎中第一表ニ示スガ如キ14名ノ

患者ヲ選ビ之ニ就キ、稍々詳細ニ互リ、赤血球沈降速度及ビ血液像ヲ觀察セリ。是等14名ハ何レモ最初ハ化膿菌ニヨル混合傳染等ヲ有セズ、又結核性ノ内科的疾患等ニ罹リ居ラザルモノニシテ、治療法トシテハ専ラレントゲン照射ヲ行ヘルモノナリ。

第 一 表

氏 名	年齢	性	自覺ヨリ初診マテノ期間	腫瘍箇數及病側	痛覺	周圍トノ癒著	既往症	家族歴	其他
1) [ ]	13	♀	20日	右、數	—	—	—	—	—
2) [ ]	16	♂	2年	兩、多	—	—	—	—	—

3)	■	23	♀	6月	左、多	±	++	左側浸出性肋膜炎	—	咳嗽±
4)	■	14	♂	1月	右、多	+	+++	—	—	咳嗽± 發熱±
5)	■	29	♀	2月	右、二三	—	—	慢性腹膜炎	—	—
6)	■	27	♀	2月	左、二三	—	—	右側結核性頸腺炎	—	—
7)	■	23	♀	11月	右、二三	+	+++	—	—	—
8)	■	28	♀	4年	右、多	±	—	—	—	—
9)	■	21	♀	2月	兩、多	—	++	脚氣	—	—
10)	■	18	♀	1月	兩、數	—	—	—	—	—
11)	■	15	♂	1月	右、二三	—	—	脚氣	—	—
12)	■	15	♂	6月	右、數	—	—	—	—	—
13)	■	26	♀	10年	左、數	—	+++	—	—	—
14)	■	38	♀	6月	右、多	—	—	—	—	咳嗽+

レ線照射ハ1週1回之ヲ行ヒ(一般論参照)、各回毎ニ48時間經過後患者ヨリ採血シ上述ノ如キ検査ヲ行ヒ、照射前ノ状態ニ比シ漸次如何様

ニ變化ヲ來スヤ、而シテ是レガ豫後又ハ治療ニ對シ何等カノ意義アリヤ等ニ關シ觀察セリ。

### 第一章 検査法

#### (1) 赤血球沈降速度

赤血球沈降速度ニ就テハ Westergreen 氏法ニ隨ヒ、3.8%ノ滅菌枸橼酸曹達ヲ使用ス。血液貯藏時間ハ、大谷氏ニ依レバ、24時間後ニ及ブモ大ナル影響無シト云ハル、モ Haselhorst ハ12時間後ニハ既ニ著明ノ促進アリト云フ。余ハ種々ナル障碍ヲ避ケル爲メ、常ニ採血直後ニ之ヲ檢セリ。

採血時刻ハ空腹時ヲ最良トスルヲ以テ、外來患者ヨリ採血スルニ際シテハ、晝食前ニ之ヲ行ヘリ。

試験溫度 37度孵卵器中ニテ檢スルヲ最良トス。余モ亦之ニ從フ。

試験操作 2cc注射器ニ、0.4分劃マデ3.8%枸橼酸曹達液ヲ吸引シ、次デ正中靜脈ヨリ、可及的鬱血ヲ避ケツ、採血シ、2.0ccニ達セシム。次デ小試験管ニ移シ、靜ニ良ク振盪シテ Westergreen 氏法ニヨル「ピベット」ニ吸引シ垂直位ニ固定セリ。

速度表示法 從來行ハレタル如ク、30分、1時間、2時間及ビ、24時間ノ4回ニ測定セリ。而

シテ1時間及ビ、2時間ノ價ヲ各々A、Bトセバ、之ヨリ次ノ式ニヨリ中等價ヲ求メタリ。

$$A + \frac{B}{2} = \text{中等價 (M.W.)}$$

24時間ノ價ヲ最終價ト呼ベリ(E.W.)。

#### (2) 血液像

採血法 型ノ如ク先ヅ「アルコール」ヲ以テ、耳孕ヲ良ク消毒シ、乾燥スルヲ待ツテ、小切創ヲ作り、壓迫スル事無ク、自然ニ流出スル血液ヲ法ニ從ヒ「オブエクトグラス」ニ塗抹ス。

染色法 「メチールアルコール」ヲ以テ、3—5分間固定シ、乾燥セル後、20倍稀釋ギムザ氏液ニテ約30—40分間染色ス。

白血球分類 Schilling ニ隨ヒ

- B. (Basophile)                      E. (Eosinophile)
- M. (Neut. Myelocytin)
- J. (Neut. Metamyelocytin)
- St. (Neut. Stabkernige)
- S. (Neut. Segmentkernige)
- Kl.L. (Kleine Lymphocytin)

Gr. L. (Grosse Lymphocyten)

Thoma Zeiss. 式ヲ用フ。

Mon. (Monocyten u. Übergangsform)

(+) 血色素ノ測定法

ニ分類セリ。

之ニハ Sahli 氏ノ血色素計ヲ使用ス。

(3) 血球數

## 第二章 レントゲン照射前ノ血液所見

レ線照射前ノ血液所見ヲ示表スレバ、第二表ノ如シ。

第 二 表

氏 名	年 齡 性	赤血球沈降速度						血 液 像							血球數	血 色 素		
		1/2 st	1 st	2 st	24 st (E.W)	M.W	B	E	Neutrophile				Lymphocyten				Mon. und Über.	赤單血位白血球萬
									M	J	St	S	Kl. L	Gr. L				
1. █████	13歳 ♀	12	31	50	95	28.0	0.5	0.5	4	34	27	30	0.5	3.5	436	7,600	93	
2. █████	16歳 ♀	45	68	78	107	53.5	0.5	2	39.5	27	20	0.5	10.5	432	11,000	70		
3. █████	23歳 ♀	83	106	117	130	82.25			1	58	21.5	16	0.5	3	412	6,900	87	
4. █████	14歳 ♀	45	70	91	117	57.75			31	34.5	22.5	4.5	5.5	482	12,800	92		
5. █████	29歳 ♀	67	98	108	130	74.5	0.5		1.5	68	11.5	12.5		6	480	8,800	83	
6. █████	27歳 ♀	38	64	86	96	53.5			0.5	32	30	32		5.5	440	8,600	78	
7. █████	23歳 ♀	35	66	81	110	53.25	0.5	0.5	0.5	62	15.5	15.5	1	4.5	438	8,600	80	
8. █████	28歳 ♀	12	23	45	90	22.75		2	26	43	23.5	0.5	5	412	10,900	95		
9. █████	21歳 ♀	35	65	115	150	66.25			29.5	30	33	2	5.5	436	5,000	55		
10. █████	18歳 ♀	33	64	87	119	53.75			47.5	28	16.5		8	420	9,600	75		
11. █████	15歳 ♀	3	15	36	75	16.5		1.5	0.5	15.5	21.5	55	2	4	651	9,200	96	
12. █████	15歳 ♀	13	40	68	107	37			0.5	23	20	42	0.5	14	424	8,200	95	
13. █████	26歳 ♀	8	21	48	108	22.5		1	30	33	31.5	1.5	3	430	5,000	82		
14. █████	38歳 ♀	40	90	110	122	72.5		1	23	34.5	32.5	2	7	548	9,600	95		
15. Kontroll		2	4	10	57	4.5		2.5	5	49	37.5		6	534	5,700	103		

## (1) 血液像

鹽基性嗜好細胞ハ、第1、第2、第5及ビ、第7例ニ於テ0.5%ニ之ヲ見ル。

「エオジン」嗜好細胞ハ、第3、第4、第5、第6、

第9、第10及ビ、第12例即半數ニ於テ之ヲ缺如シ、他ノ半數ハ存在スルモ正常ノモノニ比スレバ尙、其ノ値減少セルヲ認ム。

中性嗜好細胞中半數ニ於テ若型ノ出現アリ。特



前	45	68	78	107	53.5	0.5	2			39.5	27	20	0.5	10.5	432	11,000	70	2) 加、泰。 16歳、↑ 腺腫ノ大サ： 拇指頭倍大一小漸 指頭大ノモノノ 次縮小シ、治療 經過中後半ニ至 リ縮小著明トナ ル。 最ハ後半小指頭大ナ リキ。 硬度： 中等度ヲ維持 ス。 癒者： 初メハ之ヲ認メ ザレド後半ニ至 リ軽度ニ之ヲ認 メタリ。 痛覺： 無シ。 其他異常無シ。 一般狀態良。
I	35	65	101	130	57.75	1			0.5	26.5	34.5	27	2.5	8				
II	25	50	82	113	45.5		4		23	38.5	25.5	4	5					
III	25	50	92	133	79.25		1		20.5	36.5	27	3	8					
IV	17	50	79	127	44.75		4		19.5	37.5	27	2	10					
V	27	55	85	128	48.75	0.5	5		13	34.5	35.5	1	5.5					
VI	9	25	53	126	25.75		4.5		25	38.5	22	1	9	465	10,200	70		
VII	13	38	70	132	36.5				43	26	18.5	1.5	11	510	7,900	60		
VIII	12	28	62	122	34.5				31	22.5	36	3.5	7	444	7,000	72		
IX	6	22	52	123	24.0				31	21.5	29	5.5	13					
X	5	14	43	110	17.75				28	31	32	1.5	7.5					
XI	6	19	60	115	24.5	0.5	2.5		36	23	24.5	1.5	12					
XII	12	18	48	112	21.0				2	29	38.5	23		7.5				
XIII	5	15	40	106	18.5		2		49	16.5	27	1	4.5					
XIV	5	15	36	106	16.5	1	3		31.5	26.5	28	1	9					
XV		12	35	98	14.75		3.5		29.5	29.5	30		7.5					
前	83	106	117	130	82.25				1	58	21.5	16	0.5	3	412	6,900	87	3) 小、サ。 23歳。♀ 腺腫ノ大サ： 拇指頭大ナリシ モノガ其ノ 大トナリタリ 硬度： 中等度。 痛覺： 初メ軽度ノ壓痛 アレド第3日目 頃ヨリ無シ。 其他異常ナシ 一般狀態良。
I	82	110	119	130	84.75				0.5	36.5	24	28.5	1	9.5				
II	60	100	120	132	80		0.5		1	36	22.5	32	1	7	425	6,900	88	
III	70	99	117	132	77.75		1.0		0.5	32.5	24	31.5	1.5	9				
IV	73	102	116	130	80		3.5	0.5	24.5	41	20.5	0.5	9.5					
V	82	105	115	130	81.25		0.5		29.5	30	27		13					
VI	95	107	121	134	83.75		0.5		1	32	39	19.5		8				
前	45	70	91	117	57.75					31	34.5	22.5	4.5	5.5	482	12,800	92	4) 矢、守。 14歳。↑ 腺腫ノ大サ： 示指頭大ナリシ ガ、7-8回目ヨ リ漸次縮小シ小 指頭大以下トナ
I	56	110	127	128	86.75				2.5	28.5	38	20.5	1	9.5				
II	90	120	125	141	91.25		0.5		0.5	35.5	30.5	28		5				



III	110	118	132	144	92.0			1		0.5	44	20	24	1.5	9				
											64.5								
IV	97	113	114	126	84.5						48.5	18.5	23.5	3	6.5				
											67								
V	104	122	130	140	93.5						45	18.5	22	2.5	12	546	5,500	77	
											63.5								
VI	40	92	117	137	75.25	0.5	0.5				43.5	23	24.5	0.5	7.5	392	8,800	78	
											66.5								
VII	49	85	100	133	67.5			0.5			1.5	48	26	16.5	0.5	7			
											75.5								
VIII	98	104	110	124	79.5	1					1.5	38.5	29.5	23	1.5	5			
											69.5								
IX	57	100	119	134	79.75	0.5	1		1	1	43.5	24	21	0.5	9				
											68.5								
X	83	114	120	138	87			2.5			43.5	29	16		9				
											72.5								
前	67	93	108	130	74.5	0.5				1.5	68	11.5	12.5		6				
											81								
I	75	97	115	126	77.25			1.5			34	35	19	1.5	9				
											69								
II	82	115	128	139	89.5					1	68	14.5	10.5	1	5				
											83.5								
III	82	115	122	130	88.0					1.5	52	12	23	0.5	10.5				
											65.5								
IV	84	116	127	128	89.75					1	60.5	15	12	1.5	10				
											76.5								
V	60	93	114	133	75.0	1				1	61.5	10	19	1	6.5				
											72.5								
VI	51	68	92	120	57.0	2					62.5	21	10		4.5				
											83.5								
VII	28	60	76	123	49.0			0.5		1	52	23.5	17	1.5	4.5				
											76.5								
VIII	26	48	76	122	43.0			1			48	30	16		5				
											78								
IX	50	96	111	128	75.75			1			41.5	31.5	14.5	0.5	6				
											73								
X	48	91	105	123	71.75			2			41	32	16.5	1	7.5				
											73								
XI	55	90	107	125	71.75			1.5		0.5	48	32.5	14	0.5	3				
											81								
XII	45	83	106	133	68.0			1.5	5	1.0	41.5	24.5	19		12	450	8,400	87	
											67.5								
前	38	64	86	96	53.5					0.5	32	30	32		5.5	440	8,600	78	
											62.5								
I	18	40	78	88	39.5			0.5			26.5	23.5	40.5		9				
											50								
II	14	42	91	120	43.75			1		0.5	37.5	32	21	2	9				
											67								
III	3	11	25	109	11.75	0.5	0.5			0.5	21.5	32	33.5	4.5	7				
											54								
IV	15	45	80	114	42.5	0.5	1.5				27	35	27	2	6	400	9,000	87	
											62								

リタリ。  
 硬度：中等度  
 周囲トノ癒著：中等度。  
 痛覺：輕度ノ壓痛アルモ後ニ至リテ去レリ。  
 其他、本患者ハ治療初メアタリニ化膿セルヲ行ヒ、開排膿ヲ行ヒ、創傷療法ヲ行ヒタリ。一般狀態：最初ニ良好ナラザレド、全身榮養佳良トナルニ從ヒ全部症狀良好ニナリタリ。

5) 大、フ。29歳。♀  
 腺腫ノ大サ：鶏卵大一示指頭大ナルモ治療中稍々増大セル感アリモ第8回目頃ヨリ急速ニ縮小シ示指頭大一小指頭大トナレリ。  
 硬度：中等度  
 癒著：一部輕度ニアリ。  
 痛覺：ナシ。  
 一般狀態：良好ナリ。

6) 仙、八。27歳。♀  
 腺腫ノ大サ：拇指一小指頭大ナルモ第10回目ヨリ急ニ縮小シ大ニナレリ。周囲トノ癒著：初メ之ヲ認メレド後ニ至リテ程度ニラ認ム。  
 痛覺：

V	12	20	50	110	22.5		0.5	0.5	35	19.5	34.5	1.5	8.5	418	8,000	77	無シ。 一般状態： 良好。
									55								
VI	2.5	23	38	113	21.0		0.5		35	28.5	27	1.5	7.5				
									63.5								
VII	7	20	51	95	22.75	0.5	1	0.5	32	22.5	33	0.5	10				
									55								
VIII	3	13	25	99	12.75		0.5	0.5	28.5	21.5	32.5	2.5	14				
									50.5								
IX	15	26	30	80	20.5			1	50.5	17.5	21.5	2	7.5	496	6,300	82	
									69								
X	8	22	44	110	22.0		0.5	0.5	41	21	25		12				
									62.5								
XI	10	21	39	109	20.25	0.5	3		26.5	27	32	0.5	10.5				
									53.5								
XII	7	25	55	110	26.25			1	26.5	29	27.5	0.5	15.5				
									56.5								
前	35	66	81	110	53.25	0.5	0.5	0.5	62	15.5	15.5	1	4.5	438	8,600	80	7) 驚、カ。 23歳。♀ 腺腫ノ大サ： 拇指頭大ヲ維持ス。 周圍トノ癒著： 軽度。 痛覺： 軽度ノ壓痛アリ。 其他： 第3回目頃ヨリメ 皮膚炎症ヲ認 漸次化膿セルニ ヨリ切開排膿シ 治癒ス。 一般状態 良。
I	82	97	114	126	77.0			0.5	59	15.5	13	2	10				
									75								
II	20	30	45	94	26.25				59.5	15	13	1	12.5				
									74.5								
III	52	82	106	120	67.5			1.5	55.5	16.5	18.5		8.0				
									73.5								
IV	9	47	83	113	44.25			0.5	60	16	13.5	0.5	9.5				
									76.5								
V	40	81	97	124	64.75		2	1	55	13	18.5	0.5	10	500	7,000	83	
									69								
VI	92	106	112	127	81.0		1	0.5	48.5	22	25	1.5	6.5	518	9,500	86	
									71								
前	12	32	45	90	22.75		2		26	43	23.5	0.5	5	412	10,900	95	8) 横、喜。 27歳。♀ 腺腫ノ大サ： 拇指頭大一手指 頭大變化ナシ。 硬度： 中等度。 周圍トノ癒著。 稍々高度ニ之ヲ 認ム。 痛覺： 無シ。 一般状態 良。
I	17	55	95	122	51.25		4		25	40.5	26	0.5	4				
									65.5								
II	10	17	38	99	18.0		2		23	46	24		5				
									69								
III	7	15	35	106	16.25		1		21.5	53	18.5	0.5	5.5	484	8,600	74	
									74.5								
IV	12	18	39	101	18.75				24	50	22.5	1	2.5	440	7,600	72	
									74								
V	40	45	54	102	36.0		0.5		20.5	46	25	1	6				
									66.5								
VI	8	20	55	107	23.75		1		18.5	47.5	26		7				
									66								
前	35	65	115	150	66.25				29.5	30	33	2	5.5	436	5,000	55	9) 中、力。 21歳。♀ 腺腫ノ大サ：示指 頭大變化ナシ 硬度：中等度。 周圍トノ癒著： 軽度。 痛覺：無シ。 一般状態 良。
I	40	65	108	120	59.5		1		35	31.5	28	0.5	4				
									61.5								
II	65	92	110	144	73.5		0.5		38.5	27.5	29.5	1.5	2.5				
									66								
III	25	60	85	134	41.25				45.5	19	27	1.5	7				
									64.5								



V	102	117	125	144	89.75			1	49	17	28	1	4	452	7,000	其他：局部皮膚ニ炎症ヲ認メ且ツ左肩胛部ニ鈍痛アリ。腺腫ハ互ニ相癒著ス一般状態：良好ナラズ。	
VI	85	102	121	136	81.75			0.5	23	50.5	19	3	4				
VII	91	112	120	135	86.0			1	29.5	47	19	0.5	3				
前	2	4	10	57	4.5	2.5			5	49	37.5		6	534	5,700		Kontroll.
I	2	7	10	68	6	0.5	1.5		5	55	30.5		7.5	520	4,700		106
II	3	7	11	65	6.25	2			4	52	36		6	525	4,600		102
III	3	7	10	64	6	2.5			4.5	54	34		7	528	4,650	103	
IV	3	8	11	67	6.75	2			4.5	48.5	37		8	530	4,700	104	

即チ第 1 例ヨリ第 6 例迄ハ照射ニ依リ、良好ナル結果ヲ得タルモノニシテ、特ニ第 1 及ビ、第 2 例ニ於テハ、全治セルモノト看做シ得ルモノナリ。

第 7 例ヨリ第 12 例迄ノモノハ、不變ノモノニシテ、第 13 及ビ、第 14 例ハ、レントゲン照射ノ他ニ、濕布等ヲ行ハシメタルニ拘ラズ、腺ノ腫脹縮小セズ、且ツ他ノ障碍即チ、周圍ノ比較的健康ナル腺ニ病變波及シ、肩胛部及ビ胸部ニ「ロイマチス」性疼痛及ビ、局部ノ皮膚ニ炎症ヲ示ス如クナリ結果不良ナリシモノナリ。

(1) 血液像

鹽基性嗜好細胞ニ就テハ特別ニ認ムル事ナシ。「エオジン」嗜好細胞ニ關シテハ照射前全般ヲ通ジテ缺如又ハ正常ヨリ減少シ居リシモノガ、良好ナル結果ヲ示セル第一群ニ於テハ、漸次其ノ數ヲ増加スルモノ、如シ。由來「エオジン」嗜好細胞ノ缺如又ハ減少ヨリ漸次正常ニ復スル事ハ疾患ノ豫後ノ良好ナルヲ示スモノナルガ、本例ニ於テモ亦斯ノ如シ。

中性嗜好細胞、レントゲン照射ヲ重ヌルト同時ニ桿狀核細胞ト分葉核細胞トノ増減關係ヲ觀察スルニ、約半數ニ於テ稍々前者ノ減退、後者ノ増加ノ傾向ヲ示スモ亦、之ト寧ロ反對ノ結果ヲ表ハスモノアリ。要スルニ一定ノ明確ナル結果ヲ得ルコトハ困難ナルモ、極ク一般的ニ其ノ結果ヲ綜合スレバ、左方轉位ノ度ガレントゲン照

射ニヨリ幾分宛ニテモ減退シ之ガ治療ニ關係アルモノナル事ヲ察知シ得ザルニ非ズ。

中性嗜好細胞全數ニ就テ之ヲ觀ルニ、第 2、第 5、第 7 例ヲ除ク他ハ、治療持續ニ從ヒテ増加ス。

淋巴球ハ中性嗜好細胞ニ反シテ、寧ロ反對ニ減少ノ傾向ヲ示ス。

大淋巴球ハ正常ナル血液像ニ於テハ、之ヲ認メザルカ、又ハ、1%ノ割ナルモ當觀察ニ於テハ正常以上ニ之ヲ認ム。

大單核細胞及ビ移行型ハ認ムベキ變化ナシ。

(2) 赤血球沈降速度

赤血球沈降速度ハレントゲン照射ニヨリ色好ナル結果ヲ示セル第 1、第 2、第 3、第 4、第 5 ノ 5 例ニ於テハ、其ノ中等價漸次遲延スルヲ認ム。第 6 例ヨリ第 12 例迄ノ不變ナル 7 例ニ於テモ亦、遲延ノ傾向アリ。然ルニ臨牀上經過不良ナリシ第 13 及ビ、第 14 例ニ於テハ、赤血球沈降速度ハ反ツテ促進サレ來ルヲ認メタリ。

(3) 血球數

レントゲン治療ヲ行フ前各例ニツキ、觀察ヲ行フモ、治療期間中ニ於テハ適當ナル時ニ之ニ就キ検査ヲ行ヘリ。

赤血球數ニ關シテハ、第 11 例ヲ除ク外各例トモ、前後ニ於テ大差ナシ。

白血球數ハ第九例ヲ除ク外ハ、其增多ヲ示セリ。レントゲン治療前續期間中、第 2 例ニ於テハ、

白血球增多症ヲ示セルモノガ、正常ニ歸セリ。

(4) 血色素含有量

唯 1 例(第 9 例)ニ於テ、治療前ニ比シテ、著シク減少セルモ他ノ例ニ於テハ著明ナル差異ヲ認めズ。

尙對照試驗トシテ、前述ト同様ナル操作方法ニ依リ健康ナル男子ノ頸部ニ、レントゲン照射ヲ行ヒ照射前及ビ期間中ニ於テ、血液所見ヲ觀察スルニ第二表及ビ第三表ノ最後ニ示スガ如ク何等變化ヲ見ズ。

#### 第四章 結 論

以上ノ検査成績ヲ綜合スルニ、結核性頸腺炎患者ノ血液像ハ著シキ左方轉位ヲ示シ、又赤血球沈降速度ハ何レモ相當ニ強ク促進サル。然ルニ今是等ニレントゲン照射療法ヲ行フ時、其ノ效力發揮サレテ臨牀上ノ症狀良好ニ向フモノハ、又一方左方轉位ノ度減ジ、特ニ赤血球沈降速度ハ漸次遲延スルヲ認ム。即チ是等ノ事ヲ仔細ニ

觀察スル事ハ、レントゲン照射ガ、結核性淋巴腺炎ニ及ボス治癒的效果即チ、其ノ豫後ニ對シ或ル程度迄參考ニナリ得ル事明カニシテ、行ハレテ良キ事ナリト信ズ。血球數、血色素量等ハ大シテ意義無キガ如シ。

擱筆ニ臨ミ御校閲ヲ賜リシ高島醫長ニ深ク謝意ヲ表ス。